

p.3, ll. 2-7

In Fig. 3, portions 11 and 12 are half-divided display portion, portions 13 and 14 are half-divided keyboard, a portion 13 is a hinge for connecting the display portion 11 and the keyboard 15, a portion 16 is a hinge for connecting the display portion 12 and the keyboard 14, and a portion 17 is a hinge for connecting the keyboard 13 and the keyboard 14.

p.3, l. 20 – p. 4, l. 6

As shown in Fig. 7, the information processing device can perform the function of electric table calculator with the display portion 12 and the keyboard 14 while the display portion 11 and the keyboard 14 are folded inward. In this case, calculation function can be provided in miniaturized form in comparison with the state of Fig. 3 in which display portions 11 and 12 and the keyboards 13 and 14 are entirely unfolded.

## 公開実用 昭和 60— 62159

⑩ 日本国特許庁(JP)

⑪ 実用新案出願公開

⑫ 公開実用新案公報(U)

昭60-62159

⑬ Int.Cl.<sup>4</sup>G 06 F 15/02  
1/00

識別記号

1 0 1

庁内整理番号

A-7343-5B

⑭ 公開 昭和60年(1985)5月1日

審査請求 未請求 (全 頁)

⑮ 考案の名称 情報処理装置

⑯ 実 願 昭58-154855

⑰ 出 願 昭58(1983)10月5日

⑱ 考 案 者	法 田 雅 彦	門真市大字門真1006番地	松下電器産業株式会社内
⑲ 考 案 者	田 島 典 幸	門真市大字門真1006番地	松下電器産業株式会社内
⑳ 出 願 人	松下電器産業株式会社	門真市大字門真1006番地	
㉑ 代 理 人	弁理士 中尾 敏男	外1名	



## 明 細 書

## 1、考案の名称

情報処理装置

## 2、実用新案登録請求の範囲

5 複数に分割した表示部と、複数に分割したキー  
ボード部と、前記各表示部および前記各キーボ  
ード部を結合する回動部材とを備えたことを特徴と  
する情報処理装置。

## 3、考案の詳細な説明

産業上の利用分野

10 本考案は携帯性を向上させた情報処理装置に関  
するものである。

従来例の構成とその問題点

表示装置とキーボードを有する電子卓上計算機  
15 等の従来の情報処理装置は折りたたむことができ  
ないか、あるいは折りたためども、表示装置やキ  
ーボードは一体であり、小さく折りたたむことが  
できず、持ち運びや収納に不便であった。たとえ  
ば第1図は従来装置を示すものである。1は情  
報処理装置、2はそのエントリデータ、演算結果



等のデータを表示する表示部、3はキーボードである。このような構成の情報処理装置は折りたたむことができず、携帯や収納に不便である。

また第2図において、4は情報処理装置、5は表示部、6はキーボードである。7は装置4を2つに折りたたむためのヒンジである。この情報処理装置4は表示部5およびキーボード6が矢印a方向に折りたためるが、キーボード等が大きなものあっては折りたたんだ状態においても依然として大型となり携帯や収納に不便である。

#### 考案の目的

本考案は前記問題点を解消し、小さく折りたため、携帯や収納に便利な情報処理装置を提供することを目的とする。

#### 考案の構成

本考案による情報処理装置は表示装置およびキーボードをそれぞれ複数の小部分に分割し、各小部分を回動部材にて接続し、容易に折りたためる構造としたものである。

#### 実施例の説明



以下に本考案の実施例について説明する。第3図において、11、12は2個に分割された表示部、13、14は2個に分割されたキーボード、13は表示部11とキーボード15とを接続するヒンジ、16は表示部12とキーボード14を接続するヒンジ、17はキーボード13とキーボード14を接続するヒンジである。

以上のような構成の実施例において、第4図、第5図、第6図に示す過程を経て、この装置を小さく折りたたむことができる。

本実施例<sup>他</sup>以外にも、表示装置およびキーボードの分割方法は種々考えられるが、適当な方法でヒンジ等回動部材で接続することにより、同様に折りたたむことができる構造とすることができる。

また第7図は他の使用例を示すものである。たとえばプログラマブル計算機を構成するキーボード13、14のうち、キーボード13には命令等を入力するためのアルファベット、記号、キーボード14には数字および加減乗除記号等を配置しておく。すると第7図のように表示部11とキー



ボード 1 3 を折込んだ状態で、表示部 1 2, キー  
ボード 1 4 を用いて電子式卓上計算機の機能を果  
すことができる。この場合、表示部 1 1, 1 2 お  
よびキーボード 1 3, 1 4 を開いた第 3 図の状態  
に比し小型化した状態で電卓機能を得ることがで  
きる。

#### 考案の効果

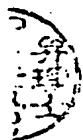
上記実施例より明らかなように本考案によれば  
携帯や収納に便利な情報処理装置を実現すること  
ができ、産業上極めて有用である。

#### 4、図面の簡単な説明

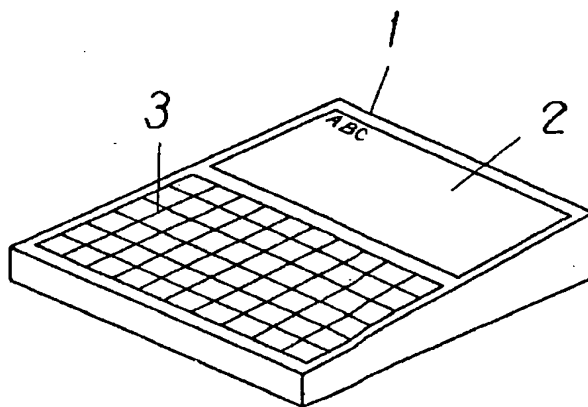
第 1 図および第 2 図はそれぞれ従来の情報処理  
装置の斜視図、第 3 図は本考案の一実施例による  
情報処理装置の斜視図、第 4 図～第 7 図はそれぞ  
れ互いに異なる状態における同斜視図である。

1 1, 1 2 ……表示部、1 3, 1 4 ……キーボ  
ード、1 5, 1 6, 1 7 ……ヒンジ。

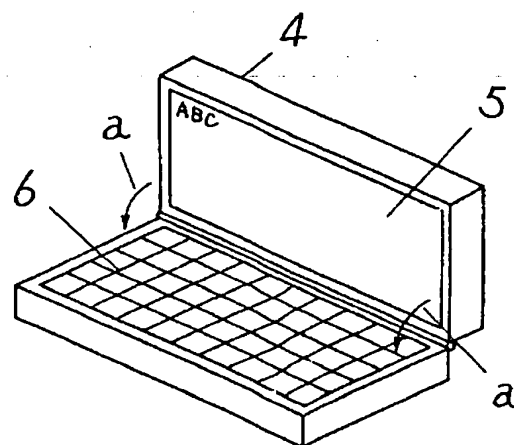
代理人の氏名 弁理士 中 尾 敏 男 ほか 1 名



第 1 図

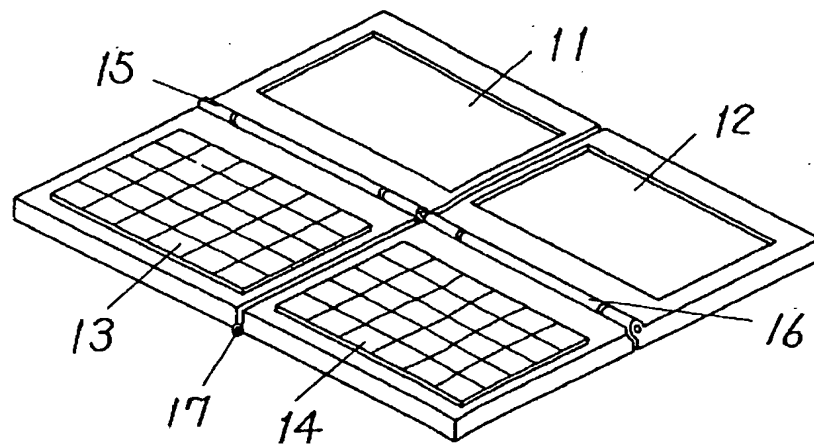


第 2 図

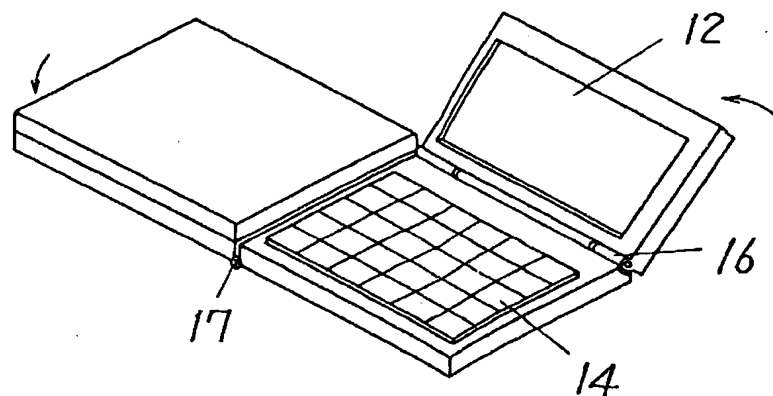


代理人の氏名 587  
井理士 中 尾 敏 男  
実開60-62係第1名

第 3 図



第 4 図



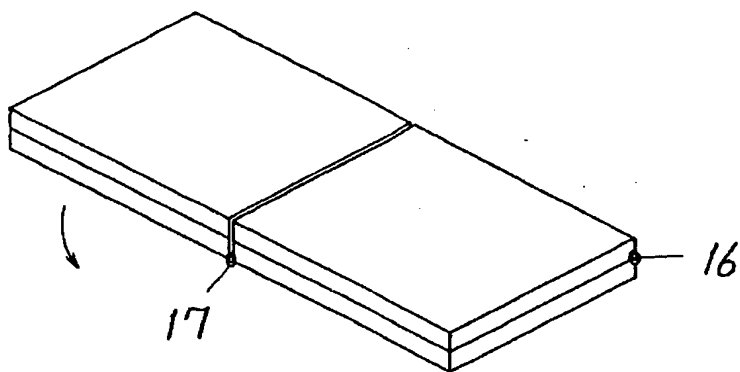
代理人の氏名

井理士 中 尾 敏 男

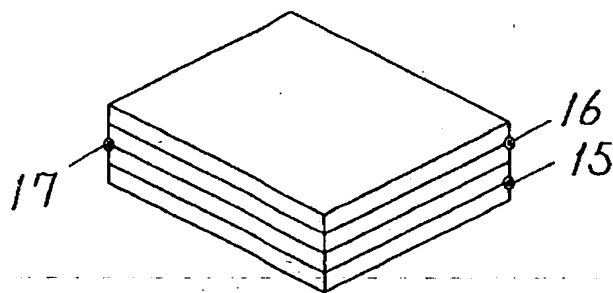
実開 588 62159—



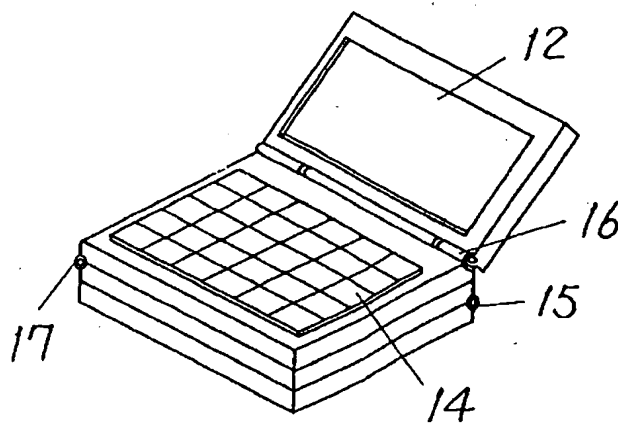
第 5 図



第 6 図



第 7 図



代理人の氏名

589

井理士 中 尾 敏 男

2159

ほか1名